

令和7年4月24日～25日

道の駅むなかた 福岡県宗像市 4月24日

概要 道の駅むなかたは平成19年(2007)10月1日設立した玄界灘に面した道の駅で、海の幸、山の幸など豊富な宗像の物産のPR及び販売拠点を目指し、周辺観光施設や地域連携などによる賑わいづくりを通して、宗像の産業や観光に貢献していく事を施設運営方針として、株式会社道の駅むなかたが指定管理者として運営していて、宗像農業協同組合・宗像市商工会・宗像漁業協同組合・宗像観光協会・宗像市の5団体が出資している。近くには世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島関連遺産群を有し、宗像大社まですぐとゆう立地にある。アクセスは九州自動車道「古賀IC」

「若宮IC」から約30分と比較的ICからも近いが高速を降りてからの一般道が狭隘なため改善できるといいなと思った。海の幸が豊富で野菜や果物も豊富で宗像市は農業と漁業が盛んな町だと思っていたが、魚介類は宗像に水揚げされる物が多いが、農産物はそれほどでもなく隣接の古賀市から仕入れているとのことだった。また道の駅にある「おふくろ食堂はまゆう」が大人気の店で、刺の身の漬けをご飯にのせてどんぶりふうに、途中からお茶をかけて2度楽しめる「お茶漬け」が人気で、その他のメニューも大変人気で、道の駅の集客にかなり貢献している。駐車場の車のナンバーを見ると福岡や北九州からの来客が多く、福岡市と北九州市のちょうど中間に位置する好立地の恩恵を上手に受けていると感じた。九州NO1と言われる道の駅である。指定管理者としての運営であり宗像市役所職員が1名出向できているが、驚いたことが、指定管理料はなしで売り上げだけで道の駅を運営している。すごい!!

概要・所感

ボートレース芦屋は昭和27年11月7日に初開催し、現在地に移転が昭和44年4月10日で今年の11月で開設73周年となる。主催者は芦屋町で直ぐそばに航空自衛隊芦屋基地があり、モーターボートの騒音が自衛隊機の騒音で近隣に迷惑をかけていないのではと思う。東にはボートレース若松があり競艇場間の距離は日本一近い2010年までは岡垣町と遠賀町との一部事務組合「芦屋町外二ヶ町競艇施工組合」であったが現在は芦屋町単独の施工者で平成10年前後の競艇氷河期に2つの町が脱退したのかなと思うが、今の売り上げを考えるとあの氷河期は競艇界が非協力的な地方自治体を排除するためのトリックだったのかと思う事もある。1つの町に900億の売り上げがある公営ギャンブルがあるということは、多くの財源不足地方自治体から見ればうらやましいに違いない。全国24場のうち売上上位7つはナイターレースを開催しているレース場で8位がモーニングレース開催の芦屋である。九州には東から若松・芦屋・福岡・唐津・大村と5つのレース場があり、若松と大村がナイター開催で芦屋と唐津がモーニングレース開催で福岡だけが通常開催だが福岡は市場が大きく九州のレース場は売上上位にいる。開催時間もだが、やはり嘗て炭鉱等で栄えた地域は博打気質の血」が今も脈々と続いているのかと思う。芦屋は700席のホールや子どもの遊び場モーヴィも新しが、子育てかどうかはわからないが、利益があり予算が取れるから作ったのかだと思うが、その予算は競艇ファンに還元すべきだと思う。